

CBR マトリックス・CBR ガイドライン検討のための枠組み作り

(案)

目的：CBR ガイドラインの7つの冊子（順番に、導入、保健、教育、生計、社会、エンパワメント、補足）の概要をわかりやすく紹介し、5つのコンポーネント（冊子の2冊目から6冊目）の各5つの要素（エレメント）を具体的に書き出し、さらにそれを用いて日本の地域作りと地域福祉が統合された活動を検討します。日本国内の活動ではマトリックス、ガイドラインに書かれていないこともあります。検討の過程でそれらも書きだし、日本に合うような枠組み作りを目指します。

検討会の結果は、報告会開催や小冊子作成により公開し、それぞれに役立てていただくというのが目的です。

枠組み：

序論 (Preamble)：各コンポーネントの初めに書かれてあります。そのうち小項目に沿って概要を示します。

各要素（わかりやすく箇条書きで書いていただく）

Introduction(はじめに)

目的

期待される効果

主要概念

推奨される活動 (Suggested Activities)

【Box：それぞれに事例や用語解説が、Box というコラムに書いてあるので注目すべき内容があればご紹介することも検討】

枠組みのフォーマットは次頁のとおりです。

CBR マトリックス・ガイドライン検討のための枠組みフォーマット

コンポーネント名：教育

序論（Preamble）：（要点をわかりやすく、以下同じ）

教育に関する普遍的権利は、世界的に承認された国際文書に堅固に制定されている。世界人権宣言第 26 条(2)、子どもの権利条約第 28 条(3)。

障害者権利条約(4)は、上記で議論した権利を再確認するものであり、特にインクルーシブ教育の権利を述べた最初の法的拘束力のある文書である。

貧困、排除、差別は、インクルーシブ教育の主要な障壁であり、低所得国における障害のある子どもの 90%以上は学校に通っていない。障害のある大人については、識字率は 3%と低く、複数の国で、障害のある女性の識字率は 1%という低さである。

MDGs の二番目の目標（小学校教育の完全普及の達成）は、障害のある子どもたちにも等しく適用される。従って、地域に根ざしたリハビリテーション(CBR)は、この目標達成に貢献する必要がある。

目的（要点）：

障害のある人が、自らの可能性を最大限発揮し、尊厳や自尊心、社会に実際に参加することを導く教育や生涯学習を受けられることができる。

CBR の役割

CBR の役割は、あらゆるレベルで教育が統合的(インクルーシブ)になるように教育部門と協働することであり、障害のある人が教育や生涯学習を受けられるように推進することである。

期待される成果：（箇条書き程度）

- ・ 障害のある全ての人とそのニーズを満たし、権利を尊重する教育と資源を利用する。
- ・ 障害のある子どもを含む全ての子どもを受け入れ、それによって、障害のある子どもが仲間と一緒に学び、遊ぶことができる地域の学校を実現する。
- ・ 地域の学校は通学可能で、あらゆる子どもの受け入れを歓迎している。柔軟性のあるカリキュラム、教員は訓練を受けており支援体制がある。家族と地域の連携がよく取れている。そして、十分な量の水と衛生設備がある学校を実現する。
- ・ 障害のある人が模範(役割モデル)となり、意思決定者として、また貢献者として教育に関与している。

- ・ 教育を奨励し支援する家庭環境を実現する。
- ・ 障害のある人は学ぶことができることを知り、障害のある人を支援し応援する地域を実現する。
- ・ 保健、教育、社会や他部門との間に良好な協力がある。
- ・ あらゆるレベルで、国家政策がインクルーシブ教育を幅広く推進するような組織的な提言がある。

主要概念：(箇条書き)

- ・ **教育**： フォーマル教育、インフォーマル教育、ノンフォーマル教育、家庭教育、地域主導、政府主導が含まれる。
- ・ **人権**： 誰もが教育を受ける権利を持っている。しかし、障害のある人は例外だと誤解されることがある。
- ・ **貧困と教育**： 障害のある子どもにとって、教育の欠如に起因する貧困のリスクは、障害のない子どもよりさらに高くなる可能性がある。教育から排除されている障害のある子どもは、一生涯を通じて長期的に貧しいということは明らかな事実である
- ・ **インクルーシブ教育**： 学習、文化、地域への参加を増加させ、教育の中における排除や教育からの排除を減少させることを通して全ての学習者のニーズの多様性に取り組み応じるための過程である。
- ・ **統合教育**： 障害のある子どもを普通学校に入学させる過程で、学校制度よりも障害のある個々の子どもを中心に捉えている。
- ・ **特別支援教育**： 特別な支援の提供、適応したプログラム、学習環境や特殊な器具、教材または手段(例えば、点字、オーディオ機器、補助具、手話など)を指す
- ・ **ジェンダーと教育**： CBR ワーカーは、教育に関するジェンダーの問題に配慮する必要がある。

本コンポーネントの要素の紹介：

- ・ **幼児教育**
- ・ **小学校教育**
- ・ **中等教育と高等教育**
- ・ **ノンフォーマル教育**
- ・ **生涯教育**

エレメント名：幼児教育（Early childhood care and education）

はじめに（Introduction）：（わかりやすく、以下同じ）

幼児期とは出生時から8歳までをいう。

幼児教育の広がり「万人のための教育」宣言の6つのうちの一つである。

幼児教育は、インクルーシブ社会に種をまく。なぜなら、障害のある子どもと障害のない子どもが、一緒に学び、遊び、成長することができる場所だからである。

幼児教育は、一般的に、義務教育ではない。

目的：

障害のある全ての子どもが人生の最初の段階で最良のスタートを切り、インクルーシブな学習環境において発達を通じて支援が受けられること。

CBR の役割：

CBR の役割は、障害のある子どものいる家庭を把握し、彼らと密に相互交流し協働し、子どもの生活における全ての活動のための土台を築くことを支援することである。

期待される成果：

CBR ガイドライン：

- ・ 全ての子どもは生存と健康を推進する機会をもつこと。
- ・ 全ての子どもの身体的、精神的、言語的、認知的技能が最大能力まで発展すること。
- ・ すべての子供にフォーマルとノンフォーマルの幼児教育が奨励され、インクルーシブであること。
- ・ 障害のある子どもと彼らを支援する人々は家族や地域の一員であり、適切な支援を受けること。
- ・ 子どもたちは一緒に遊びを学び、互いの違いを受け入れ、互いに助け合うこと。
- ・ 機能障害の影響が減少し代償されること。
- ・ 障害のある子どもが、他の仲間と一緒に小学校教育への移行を円滑に行うこと。

主要概念：

CBR ガイドライン：

- ・ 幼児期
- ・ 子どもの発育
- ・ 遊びや活動を取り入れた学習と刺激
- ・ 年齢相応の活動
- ・ 選択と柔軟性

推奨される活動 (Suggested activities) :

CBR ガイドライン :

- ・ 幼児期のニーズを把握する
- ・ 家庭での早期学習を支援する :
 - ・ 家族とのかかわり
 - ・ 家庭に根差した活動を推奨する
- ・ 地域における支援学習
- ・ インクルーシブな保育園の開発を支援する
- ・ 専門的なサービスの入手、利用を保証する
- ・ 障害を持った大人と子どもを巻き込む
- ・ 訓練と啓発を実行する
- ・ 貧困問題に取り組む
- ・ インクルージョンに関するロビー活動と政策提言
- ・ 緊急事態、紛争、難民状態に備える

エレメント名：小学校教育（Primary education）

はじめに（Introduction）：（わかりやすく、以下同じ）

普遍的な小学校教育を達成することが、ミレニアム開発目標の第二番目の目標である。

ユネスコは、最近、低所得国において障害のある子どもの 90%以上は学校に通っていないと推定した。

小学校教育は、基本的な権利であり、障害者権利条約、第 24 条に、“... 障害のある子どもが無償の義務教育から除外されない...”と述べられている。

目的：

友好的でインクルーシブな小学校教育制度が、教育活動の中心である地域の学校とともに、地域の中に存在すること。

CBR の役割：

CBR の役割は、インクルーシブな地域の学校をつくるために、小学校教育制度と協力体制を構築し、地域の小学校教育を利用するために障害のある子どもとその家族を支援し、家庭、地域、学校間の連携を発展させ持続することである。

期待される成果：

CBR ガイドライン：

- ・ 地域全体がインクルーシブな小学校教育を開発するために参加する。
- ・ 家族は積極的、協力的であり、インクルーシブな小学校教育に関与している。
- ・ 障害のある子どもがみんな、質の高い小学校教育を修了すること。
- ・ 適切な支援機器、治療、その他必要な支援は、インクルージョンを支援するよう利用しやすく、入手しやすい。
- ・ 学校環境の中で利用に関する問題が把握され、対処されている。
- ・ 教員は、支援されていると実感し、障害のある子どもへの教育に自信をもっている。
- ・ カリキュラム、試験及び評価制度、教育のアプローチと課外活動(例えば、スポーツ、音楽、クラブ)が、子ども中心でインクルーシブである。
- ・ 教育のための地域および専門家の資源(リソース)は、完全に、適切に活用されている。
- ・ 貧困家庭出身の障害のある子どもが小学校に通う。
- ・ 国家政策がインクルーシブな小学校教育を推進するように、すべてのレベルで唱道し、適切な関係者と、支援体制や協力関係を構築する。

主要概念：

CBR ガイドライン：

- ・ 地域全体のアプローチ

- ・ 学校全体のアプローチ
- ・ 社会的インクルージョン
- ・ 多様性への対応
- ・ 友好的で利用しやすい環境
- ・ 学習者中心のアプローチ
- ・ 柔軟性のある小学校教育
- ・ 資源と専門家のサポート

推奨される活動 (Suggested activities) :

CBR ガイドライン :

- ・ 地域住民を結集する
- ・ 家族を支援し、巻き込む
- ・ 障害のある子どもを支援する
- ・ 学校が快く受け入れ利用しやすくするための手助け
- ・ 学習環境を作る手助けをする
 - ・ 学校から始める
 - ・ 質に焦点を当てる
 - ・ カリキュラムや教授法の変化を促す
 - ・ 柔軟性のある試験と評価を奨励する
 - ・ 協働と支援を推進する
- ・ 利用可能な資源を使用して支援を開発する
 - ・ 地域の資源と支援を描く
 - ・ 専門家の支援の利用を容易にする
 - ・ 小学級の最適な使用を奨励する
 - ・ インクルージョンの方向へ特別支援学校をガイドする手助け
- ・ 貧困に取り組む
- ・ ネットワーク、支持者、情報共有

エレメント名：中等教育と高等教育 (Secondary and higher education)

はじめに (Introduction) : (わかりやすく、以下同じ)

障害のある児童生徒が中等教育や高等教育を受ける権利は、障害者権利条約（第 24 条 2(a), 2(b), 5)の中で強調されている。

障害があればあるほど、仕事を見つけるためにかつ社会に完全にインクルージョンされるために、基礎教育以上の教育を受ける必要がある。

障害のある児童生徒にとっては、中等教育や高等教育への進学は、豊かで実り多い人生を手に入れる最も有力な入口となる。

目的：

障害のある生徒が、生計の機会、エンパワーメント、インクルージョンを促進しながら、他の生徒と一緒に学習し、資格や技能を取得し、経験を積む機会を持つことである。

CBR の役割：

中等教育や高等教育における CBR プログラムの役割は、障害のある生徒の参加や達成が増加しながらインクルージョンが促進され、利用しやすい環境と柔軟性のあるカリキュラムを学校関係者と作ることである。

期待される成果：

CBR ガイドライン：

- ・ 中等教育と高等教育における障害のある生徒の就学率と修了率を増やすこと。
- ・ 障害のある生徒が政府助成金、奨学金、その他の基金を利用できること。そして両親や地域はこれらの支援の利用法についての知識や能力を持っていること。
- ・ 教育を等しく受けるためのロビー活動団体やキャンペーンを地域が支援すること。
- ・ 家族や地域が障害のある子どもを含む全ての子どもに中等教育と高等教育に進学することを奨励すること。
- ・ 中等教育と高等教育のプログラムが、環境、教授法、カリキュラム、課外活動(例：スポーツ、レクリエーション、音楽)、評価制度と試験制度の点で利用しやすくインクルーシブであること。
- ・ 中等教育は、障害のある人々の経験から多様性とインクルージョンを学び、インクルーシブな社会で求められている技能を身に付けること。
- ・ 専門家の支援が障害のある生徒のインクルージョンを高めるために適切に利用されること。
- ・ 中等教育と高等教育から成人への移行期に適切な支援が受けられ、進路指導が利用しやすくインクルーシブであること。

主要概念：

CBR ガイドライン：

- ・ 制度を変える
- ・ 期待度が低いという障壁
- ・ 達成と評価
- ・ 異年齢で学び合うこと

推奨される活動（Suggested activities）：

CBR ガイドライン：

- ・ 地域を巻き込む
- ・ 家族を支える
- ・ インクルーシブな学習環境を作る手助けをする
 - ・ 環境と場所
 - ・ カリキュラムと教授法
 - ・ 支援と評価
 - ・ 情報通信技術
 - ・ ピアサポートと役割モデル
- ・ 専門家の支援を最大限に活用するよう奨励する
- ・ 移行期を支援する
- ・
- ・

エレメント名：ノンフォーマル教育（Non-formal education）

はじめに（Introduction）：（わかりやすく、以下同じ）

ノンフォーマル教育とは、正規の学校教育の枠外で行われる教育のことをいい、地域教育・成人教育・生涯教育・二度目の教育機会などとも呼ばれる。それは、在宅学習から行政機関提供のもの、または地域による取り組みに至るまで、地域における教育活動の広い範囲を指し、評判の良い教育機関の運営による認可された講座や小規模な予算で地域に根ざした活動も含まれる。

ここでは、子どもと若者のための正規の学校教育外でのノンフォーマル教育に焦点を当てる。しかし、CBR ワーカーは、ノンフォーマル教育は疎外と汚名を強めることを理解しておく必要があるので、障害のある子どものための唯一の選択肢として提供されるべきではない。全ての子どもの権利として、普通学校でのインクルージョンが優先されるべきである。

ノンフォーマル教育がしばしば正規教育の次に良い選択肢とされる一方で、学校教育よりも質の高い教育が提供されうることの特筆すべきである。

目的：

障害のある人が知識や技能を習得し、生活の質を向上させること。

CBR の役割：

CBR の役割は、障害のある人もインクルーシブな環境の中でそれぞれの興味やニーズに応じた教育機会が得られるよう保証するため、ノンフォーマル教育プログラムと共同で取り組むことである。

期待される成果：

CBR ガイドライン：

- ・ 障害のある人がノンフォーマル教育プログラムに参加し、より良い生活条件へとつなげるための読み書きや計算、その他の技能を学ぶ。
- ・ ノンフォーマル教育プログラムは障害のある人も含め、彼らのニーズを考慮したプログラム内容にする。
- ・ 障害のある人とその家族、障害当事者団体、親の会がノンフォーマル教育プログラムに関する意思決定や実施に携わる。
- ・ 在宅学習は、正規の学校教育を補完するものとして、または準備のためやそれに代わるものとなる。
- ・ 障害のある生徒と障害のない生徒が交流し友情を築くことによって、社会的つながりが強まる。

主要概念：

CBR ガイドライン：

- ・ 学習者の生活や社会のニーズと関連がある
- ・ 学習者の発達レベルに合わる
- ・ 内容や手法が柔軟
- ・ 参加型
- ・ 子ども達を危険から守り、彼らの生きる権利や発達する権利を守る
- ・ インクルーシブである
- ・ 高い質

推奨される活動（Suggested activities）：

CBR ガイドライン：

- ・ 既存のノンフォーマル教育プログラムをインクルーシブに
 - ・ 政府のプログラム
 - ・ 地域に根ざしたノンフォーマル教育の取り組み
- ・ 実用的で適切なカリキュラムにする
- ・ 在宅学習へのサポート
- ・ 特殊な学習グループへの支援
- ・ 地域のデイセンターを適切なものにする
- ・ 正規教育とのつながりを促す

エレメント名：生涯教育（Lifelong learning）

はじめに（Introduction）：（わかりやすく、以下同じ）

生涯学習への権利については、障害者権利条約の第 24 条にも記述されており、生涯学習は、知識・技能・能力の向上を目的として人生を通して継続的に行われる目的のある学習活動の全てを指す。

生涯学習は、正規でもノンフォーマルでも、様々な環境で行うことができる。

本ガイドラインでは、障害のある若者と成人向けの正規の学校システムから外れた生涯学習機会に焦点を当てる。

目的：

障害のある青年や成人が、質の高い生涯学習と様々な学習経験への機会を得る。

CBR の役割：

CBR の役割は、障害のある人たちの社会的排除や疎外、失業を防ぐために、継続した学習機会を提供することである。

期待される成果：

CBR ガイドライン：

- ・ 正規教育を受けている障害のある青年が、職業ガイダンス、ピアカウンセリングなどの機会を通して、就労や技能訓練の機会へ移行できる支援が受けられる。
- ・ 障害のある成人が、生涯を通じてオープンスクールでの識字教育や遠隔学習による高等教育などの適切で柔軟性のある効果的な学習機会を得る。
- ・ 重度重複障害のある青年や大人とその介護者、家族といった特別なニーズがある個人やグループが、実施中の学習の機会を得る。
- ・ 障害のある青年や成人が、生殖に関する健康や性行為、HIV/AIDS の情報を含めた生活技能や生存に必要なニーズについての実施中の教育の機会を得る。
- ・ 地域における公立・私立、および他の教育機関の教育者は、積極的に生涯学習の機会を提供することにより、障害を持つ青年や成人の社会的インクルージョンを促進する。

主要概念：

CBR ガイドライン：

- ・ 成人学習
- ・ 生涯学習の種類
- ・ オープン学習
- ・ 生活および生存のための技能

推奨される活動 (Suggested activities) :

CBR ガイドライン :

- ・ 移行ための支援を促す
- ・ 成人への識字教育および教育の機会を把握する
- ・ 教育を継続するための機会を把握する
- ・ 特定のニーズがある個人やグループの学習を促進する
- ・ 生活および生存のための技能の学習機会を保障する
- ・ 社会のインクルージョンを促進するために地域の教育者と連携する